

令和3年度の予算編成方針について

現時点では、推計の前提となる地方交付税の概算要求や令和2年度人事院勧告などが示されていません。
このため、今回の財政見通しは、財務部でさまざまな条件を仮設定したうえで試算しました。
今後、数値は変動していく可能性があります。

令和2年9月
財 務 部

I 横須賀市を取り巻く環境

- ◆ 新型コロナウイルスの影響で市民の生活様式が一変
- ◆ 企業業績の悪化で倒産件数の増加や非正規労働者を中心とした解雇者数の増など、国内経済は非常に厳しい状況
- ◆ 横須賀市にも影響が及び、令和2年度予算で当初予算から15億円の市税等を減額補正、令和3年度も減収傾向は続く見込み
- ◆ 歳出面でも経済状況の悪化による社会保障費の増、新しい生活様式における感染拡大にかかるコストの増加も見込まれる
- ◆ 未だ感染症の収束が見通せない中、これまでに増して横須賀市の財政状況は厳しくなると考えられる



Ⅱ 令和3年度予算編成方針

1. 基本方針

再興プランに掲げた事業に財源を重点配分

- ◆令和3年度は再興プランの最終年度であり総仕上げを行う
- ◆さらに、新型コロナウイルス感染症により、市民の暮らし、地域の経済は大変な困難に直面している。行政として、こうした課題に今こそ積極的に立ち向かっていく
- ◆また、社会も大きく変わってきているため、行政も変わらなければならない。誰も一人にさせないまちの実現に向け、市民ニーズを捉えた取り組みを的確に行っていく



- (1) 「再興プラン」に基づく積極投資
- (2) 市内経済を早期に回復していくための投資
- (3) 将来に向けた先行投資

Ⅱ 令和3年度予算編成方針

2. 積極投資のための財源確保

税収の大幅な減少、社会保障費の増加、新型コロナウイルス感染症への対応が予測される中でも、市民の暮らし、市内経済を一日も早く回復させるため、以下の方策で財源確保を図っていく。



(1) 徹底した内部管理経費の見直し

現在の厳しい財政状況下においては、内部管理経費の削減は必須
人員の削減、組織・人員体制の見直し、ICTの活用等の
業務効率化を行い**ゼロベースで今の業務のやり方を見直す**

(2) FM戦略プラン等の着実な推進

(3) 国や県などからの財源の獲得

(4) 決算ベースの編成

Ⅱ 令和3年度予算編成方針

3. 基本姿勢

(1) 広い視野に立った積極的な事業立案

- ◆事業が必要とされる背景、事業を行う目的（本質）を的確にとらえ、**目標（KPI・KGI）を明確にする**
- ◆既成概念にとらわれないクリエイティブ（独創的）な発想で検討
- ◆意欲やアイデアを埋没させることのないよう、失敗を恐れずに、まずは取り組む
- ◆部局単位ではなく、市全体としてどうすべきかという立場で検討し、組織の枠を超えて連携
- ◆できない理由ではなく、どうすればできるかを考える

Ⅱ 令和3年度予算編成方針

3. 基本姿勢

(2) 国・県、他の自治体や民間企業等との連携強化

- ◆国や県と密に連携を図り、積極的に財源獲得を目指す
 - ・補助要件を意識した手法・制度の工夫、活用していない補助金等の発掘に努める
 - ・必要があれば、国や県に事業案やグランドデザインを示し、新たな補助の獲得のほか、制度改正等の要望、交渉を行う
- ◆他の自治体と連携し、単独では解決できない課題に対応
- ◆民間企業や研究開発機関と連携することで、投資の誘発、新たな産業を生み出すことの可能性につなげる

Ⅱ 令和3年度予算編成方針

3. 基本姿勢

(3) 時代の変化に合わせた取り組み

- ◆時代の流れや変化のスピードに取り残されないよう対応し、市民ニーズに合わせた取り組みを実施
- ◆固定観念や先入観を排し、仕事を根本から見直すなど、市役所が変わる必要がある。
- ◆見聞を広め、大局的な視点で、将来のために何をすべきか考えて事業を検討する。そのために必要な経費は積極的に要求